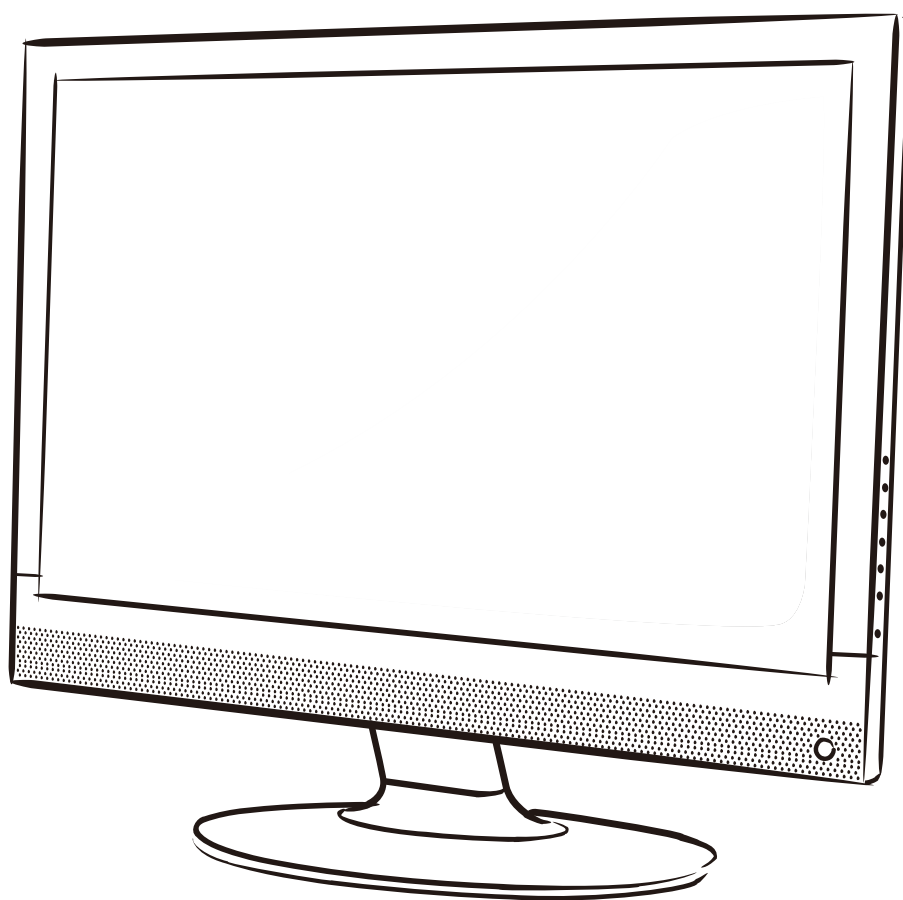
18.5型 地上デジタルハイビジョン 液晶テレビ

型番:GH-TV19JLHDK

取扱説明書

目次

はじめに

この章では、本製品をご利用いただく上での注意事項や付属品の説明など、最初に知っておいていただきたい内容を記載しています。

安全上のご注意（安全に正しくご使用いただくために）

製品を安全に正しくお使いいただき、人の被害やものの損害を未然に防ぐための重要な内容を記載しています。
次の内容をよく理解してから本文をお読みになり、注意事項をお守りください。

■表示の説明

この表示の注意事項を守らないと、死亡したり、重症を負うおそれがあります。

この表示の注意事項を守らないと、ケガをしたり、ものに損害を与えるおそれがあります。
なお、この表示の注意事項や、ここに示していない本文中の注意事項でも、状況によっては、死亡したり、重症を負うおそれがあります。
必ず、ここに示す安全上のご注意をお守りください。

■絵表示の例

行為を禁止する絵表示

禁止

この絵表示は、行為を禁止する内容を示しています。
（左図の場合､「禁止」を示しています。）

注意をうながす絵表示

注意

この絵表示は、注意をうながす内容を示しています。
（左図の場合､「注意」を示しています。）

行為を指示する絵表示

コンセントから
プラグを抜く

この絵表示は、行為を指示する内容を示しています。
（左図の場合､「コンセントからプラグを抜く」を示しています。）

警告　異常が発生した場合

コンセントからプラグを抜く	煙が出たら、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 そのまま使用すると火災や感電の危険があります。煙が出なくなったことをご確認の上、ご購入店、または弊社テクニカルサポートへご連絡ください。
コンセントからプラグを抜く	発熱したら、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 そのまま使用すると火災や感電の危険があります。発熱がなくなったことをご確認の上、ご購入店、または弊社テクニカルサポートへご連絡ください。
コンセントからプラグを抜く	異臭がしたら、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 そのまま使用すると火災や感電の危険があります。異臭がなくなったことをご確認の上、ご購入店、または弊社テクニカルサポートへご連絡ください。
コンセントからプラグを抜く	異音がしたら、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 そのまま使用すると火災や感電の危険があります。異音がなくなったことをご確認の上、ご購入店、または弊社テクニカルサポートへご連絡ください。
コンセントからプラグを抜く	落下や衝撃により破損したら、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 そのまま使用すると火災や感電の危険があります。ご購入店、または弊社テクニカルサポートへご連絡ください。
コンセントからプラグを抜く	水や異物が内部に入ったら、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 そのまま使用すると火災や感電の危険があります。ご購入店、または弊社テクニカルサポートへご連絡ください。

※地震や津波、地すべりなどの災害が発生するおそれがある場合、まずは、身の安全を確保してください。

警告　電源について

AC100V以外使用禁止	電源プラグは、100 ボルト交流電源 (AC100V) のコンセントにしっかり差し込んでご使用ください。 日本国外の商用電源や船舶などの直流電源でご使用になると故障の原因となり、火災や感電の危険があります。
定期的にプラグを掃除	電源プラグは、定期的に掃除を行ってください。 電源プラグやコンセントにゴミやホコリがたまるとショートの原因となり、火災の危険があります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやホコリを取り除いてください。
コンセントからプラグを抜く	電源プラグのお手入れは、電源プラグをコンセントから取り外して行ってください。 電源プラグをコンセントに差し込んだままお手入れを行うと、感電の危険があります。
定格超過禁止	コンセントや延長ケーブル、OA タップなどの定格を超えてご使用にならないでください。 タコ足配線などによって定格を超えると、火災や感電の危険があります。
コード傷つけ禁止	電源ケーブルのコードは、傷つけないでください。 ものをのせたり、引っぱったり、ねじったりなど、無理に取り扱うとコードが傷つき、火災や感電の危険があります。

警告　電源について

 落雷時は 触れない	落雷のおそれがある場合、製品に触れないでください。 感電の危険があります。
 濡れた手で 触れない	濡れた手で電源プラグに触れないでください。 感電の危険があります。
 破損コンセント 使用禁止	破損したコンセントをご使用にならないでください。 コンセントに電源プラグをしっかり差し込んでも、ゆるみがあると、火災や感電の危険があります。破損したコンセントではない、別のコンセントでご使用ください。
 コードひっぱり 禁止	電源プラグをコンセントに抜き挿しする場合、電源プラグを持ってください。 コードを引っぱると、電源プラグやコード、コンセントが傷つき故障の原因となり、火災や感電の危険があります。

警告　設置について

不安定な場所に置かない

不安定な場所に置かないでください。
不安定な台や振動のある場所、強度の弱い場所に置くと、落下や転倒の危険があります。

水濡れ禁止

水のかかる場所に置かないでください。
雨や雪の吹き込む窓際、屋外、浴室でのご使用は、水濡れによる故障の原因となり、火災や感電の危険があります。

禁止

通気口をふさがないでください。
通気口をふさぐと、内部に熱がこもることによる故障の原因となり、火災の危険があります。

禁止

湿度の高いところに置かないでください。
火災や感電の危険があります。

禁止

異物が浮遊するところに置かないでください。
ホコリや砂、油煙といった異物が内部に入ることによる故障の原因となり、火災や感電の危険があります。

禁止

温度の高いところに置かないでください。
熱器具の近くや直射日光の当たる場所、閉めきった自動車の中など温度の高いところに置くと、高温による故障の原因となり、火災や感電の危険があります。

警告　使用について

分解や改造
禁止

分解や改造をしないでください。
火災や感電の危険があります。

禁止

子供だけで使用させたり、乳幼児の手の届くところでご使用にならないでください。
感電やケガの危険があります。

禁止

水や異物を入れないでください。
火災の危険があります。

禁止

ふんだり、のったり、投げたり、落としたりしないでください。
衝撃による破損の原因となり、火災や感電の危険があります。また、持ち運ぶ場合は、無理に取り扱わないでください。

禁止

業務用途としてはご使用にならないでください。
過負荷による故障の原因となり、火災や感電の危険があります。

警告　リモコンについて

指定外の電池
使用禁止

指定の電池をご使用ください。
指定外の電池、種類の違う電池や未使用の電池と使用済みの電池を組み合わせてご使用になると、破裂、液もれの原因となり、火災やケガをする危険があります。また、プラス (+)、マイナス (−) の極性に注意してください。

電池を
取り外して

長時間ご使用になられないときは、電池を取り外してください。
使用推奨期限を過ぎたり、使いきった電池を入れたままにすると、破裂、液もれの原因となり、火災やケガをする危険があります。

禁止

電池を加熱したり、分解したり、水や火の中に入れないでください。
破裂、液もれの原因となり、火災やケガをする危険があります。また、電池を廃棄する場合は、自治体の指示に従ってください。

禁止

電池を、乳幼児の手の届くところに置かないでください。
飲み込むと、障害や中毒の原因となります。

注意　使用について

コンセントからプラグを抜く	長期間ご使用になられないときは、電源プラグを抜いてください。 電源を切っただけでは常に微弱な電流が流れているため、故障した場合、火災の危険があります。
適度な音量で使用する	適度な音量でご使用ください。 音による周囲への影響に配慮し､適度な音量でご使用ください。
適度な音量で使用する	イヤホンは､適度な音量でご使用ください。 耳を刺激するような大音量で長時間連続ご使用になると､聴力が損なわれる可能性があります。また､周囲の音が聞こえないと危険な状況下では､ご使用にならないでください。

使用上のご注意・お手入れについて

液晶画面について

- 液晶画面を太陽にむけたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。屋外や窓際には置かないでください。
- 液晶画面を強く押したり、ひっかいたり、上に物を置いたりしないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 寒いところでご使用になると、画像が尾を引いて見えたり、画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がると元に戻ります。
- 静止画を継続的に表示した場合、残像を生じることがありますが、時間の経過とともに元にもどります。
- 使用中に画面やキャビネットがあたたかくなることがありますが、故障ではありません。

輝点・滅点について

- 画面上に赤や青、緑の点（輝点）が消えなかったり、黒い点（滅点）が表れたりしますが、故障ではありません。液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

メモリに保存されるデータに関するご注意

- 本製品のメモリには、各種の機能設定データや放送局からのメール、番組購入履歴などが記録されます。
- 本製品のメモリには、放送事業者の要求によりお客様が入力した個人情報や、データ放送のポイントなどが記録される場合があります。
- 本製品を廃棄、譲渡などする場合には、上記のメモリに記録されているデータを消去することを強くおすすめします。
- 本製品の不具合･修理など、何らかの原因で、本製品のメモリに保存されたデータが破損･消滅した場合など、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、弊社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合においても、弊社にて記録内容の修復は致しません。予めご了承ください。

スクリーン画面のお手入れについて

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 液晶の画面は特殊加工がされていますので、なるべく画面に触れないようにしてください。また画面の汚れをふきとるときは、乾いた柔らかい布でふきとってください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その販売会社にご確認ください。
- 布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。
- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり塗装がはげたりすることがあります。

外装のお手入れについて

- 乾いた柔らかい布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布でふきとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤をかけると、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、使用しないでください。
- 布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。
- ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

アンテナについて

- 妨害電波の影響を避けるため、交通のひんぱんな自動車道路や電車の架線、送配電線、ネオンサインなどから離れた場所に立ててください。
- アンテナ線を不必要に長くしたり、束ねたりすると、映像が不安定になる原因となりますのでご注意ください。
- アンテナは風雨にさらされるため、定期的に点検、交換することを心がけてください。美しい映像でご覧になれます。特にばい煙の多いところや潮風にさらされるところでは、アンテナが傷みやすくなります。映りが悪くなったときは、お買い上げ店にご相談ください。

電磁波妨害に注意してください

- 本製品の近くで携帯電話などの電子機器を使うと、電磁波妨害などにより機器相互間での干渉が起こり、映像が乱れたり雑音が発生したりすることがあります。

長時間ご使用にならないとき

- 長時間使用しないと機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて作動させてください。

国外では使用できません

- この製品が使用できるのは日本国内だけです。外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。
  This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

B-CASカードは必要なときだけ抜き差ししてください

- 必要以外に抜き差しすると、故障の原因となることがあります。
- B-CASカードの中にはICが内蔵されています。折り曲げたり、大きな衝撃を加えたり、端子部に触れたりしないようにご注意ください。
- 本製品に差し込むときは「逆差し込み」や「裏差し込み」にならないように挿入してください。

結露について

- 本製品を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本製品の表面や内部に結露が起こることがあります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずにお待ちください。そのままご使用になると故障の原因となります。

取り扱い上のご注意

- 液晶画面を強く押したり、ボールペンのような先の尖ったもので押さないでください。また、落としたり強い衝撃を与えないようにしてください。特に液晶画面のパネルが割れることがあります。
- 振動の激しいところや不安定なところに置かないでください。また、絶対に落としたりしないでください。故障の原因となります。

使用環境について

- 本製品を冷えきった状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、動作部に露が生じ(結露)、本製品の性能を十分に発揮できなくなるばかりでなく、故障の原因となることがあります。このような場合は、よく乾燥するまで放置するか、徐々に室温を上げてからご使用ください。

急激な温度差がある部屋(場所)でのご使用は避けてください

- 急激な温度差がある部屋(場所)でのご使用は、画面の表示品位が低下する場合があります。

リモコンの取り扱いについて

- 落としたり、踏みつけたり、液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
- 直射日光が当たるところ、暖房器具のそばや湿度が高いところには置かないでください。

映像や音声の遅れについて

- テレビ放送、外部入力のソースによっては、映像や音声に若干の遅れが生じる場合があります。
  映像、音声でリズムを取るテレビゲームやカラオケ機器によっては、違和感を感じる場合がありますが、故障ではありません。予めご了承ください。

クラスB情報技術装置
この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に接近して使用されると、受信障害を引き起こす事があります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

同梱品

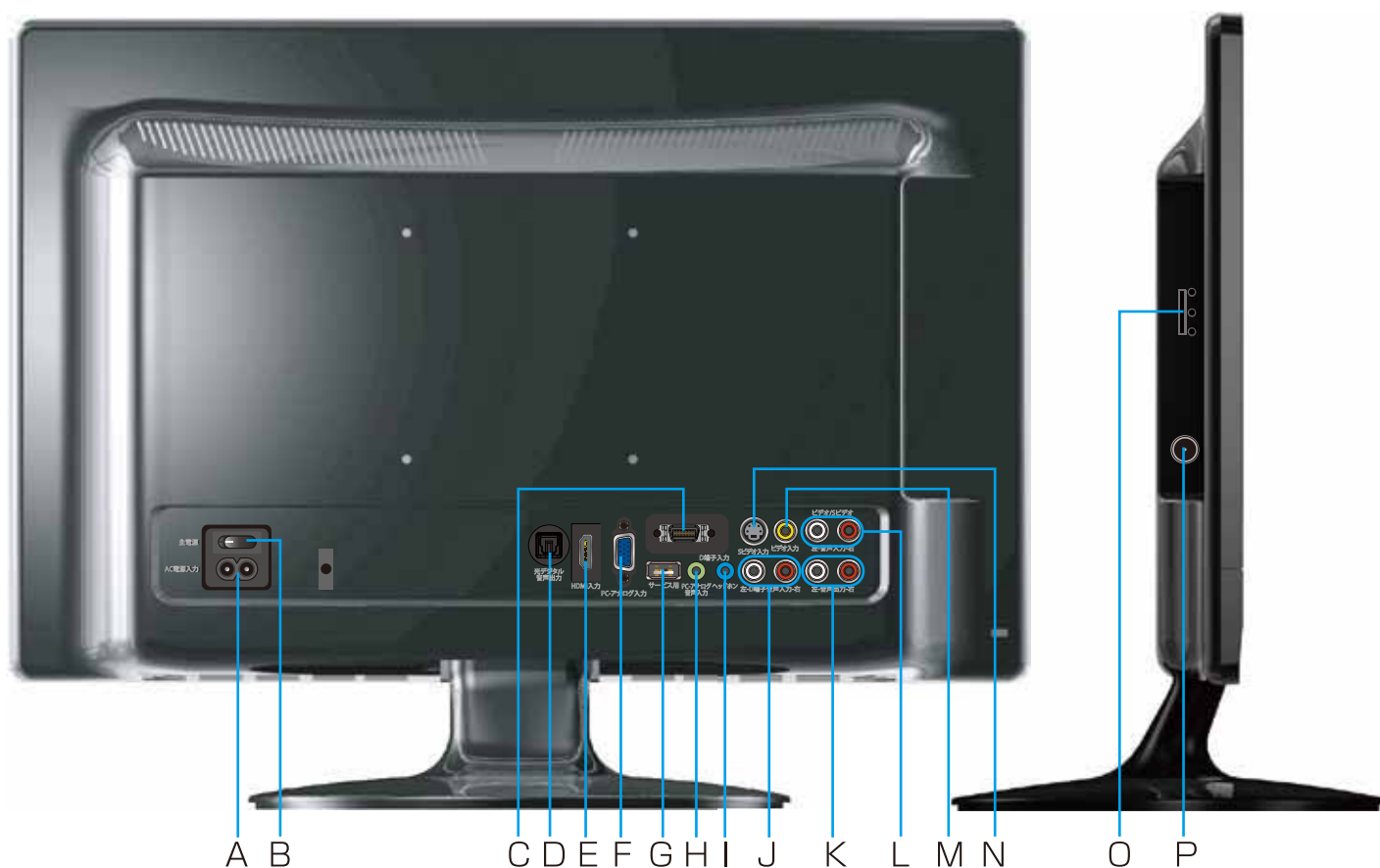
パッケージの中に下記のものがすべて入っているか、ご確認ください。

- 液晶テレビ本体
- 専用電源ケーブル
- アンテナケーブル(1.8m)
- 専用リモコン
- リモコン用乾電池(単4形乾電池×2)
- miniB-CASカード
- miniB-CASカードカバー
- miniB-CASカバー用ネジ
- 取扱説明書(本書)
- 1年間保証書
- テレビ台座
- ケーブルガイド

各部の名前

本体操作部

1	**LEDインジケータ** スタンバイ状態：橙点灯、電源オン状態：青点灯。
2	**リモコン受光部** リモコンの信号を受信します。
3	**選局 (+/−)** チャンネルの順送りによる選局を行います。 また設定メニューから項目を選択する場合に使います。
4	**決定** 入力信号の選択を行います。 一度押すと入力選択画面が表示され、さらに押すごとに入力が切り替わります。
5	**電源** 待機状態(電源ランプ：橙)と電源オン(電源ランプ：青)の切り替えを行います。
6	**メニュー** 設定メニューを表示します。
7	**音量 +/−** スピーカーの音量調整を行います。 また設定メニューの調整にも使います。

本体接続部

A	**電源入力** 付属の電源ケーブルを接続します。
B	**主電源スイッチ** 主電源の切り替えを行います。
C	**D端子映像入力** 別売のD端子ケーブルを使用して対応機器を接続します。
D	**光デジタル音声出力** 別売の光ケーブル(角型)を使用して対応機器を接続します。 (AAC 5.1CH出力のみ対応)
E	**HDMI入力** 別売のHDMIケーブルを使用して対応機器を接続します。
F	**PC-アナログ映像入力** 別売の映像信号ケーブル(Mini D-Sub 15pin)を使用してパソコンを接続します。
G	**USB端子(保守サービス用)** 使用できません。
H	**PC-アナログ音声入力** 別売のオーディオケーブル(3.5mmステレオミニプラグ)を使用してパソコンを接続します。
I	**ヘッドホン出力** 別売のヘッドホン(3.5mmステレオミニプラグ)を接続します。

J	**D端子音声入力** 別売のオーディオケーブル(ピンプラグ)を使用して対応機器を接続します。
K	**音声出力** 別売のオーディオケーブル(ピンプラグ)を使用して対応機器を接続します。
L	**AV音声入力** 別売のオーディオケーブル(ピンプラグ)を使用して対応機器を接続します。
M	**ビデオ映像入力** 別売のビデオケーブル(ピンプラグ)を使用して対応機器を接続します。
N	**S映像入力** 別売のS映像ケーブルを使用して対応機器を接続します。
O	**miniB-CASカードスロット** 付属のmini B-CASカードを挿入します。
P	**地上デジタルアンテナ入力** 付属のアンテナケーブルを使用して、地上デジタルアンテナを接続します。

リモコン

1. 電源

電源のオン・スタンバイを切り替えます。

2. 音声切換

デジタル放送時視聴時は、複数の音声があるときに音声を切り替えます。

3. 字幕

字幕サービス付きのデジタル放送番組で、字幕表示を無効または有効にします。

4. テンキーボタン

チャンネルの直接選局に使用します。

5. 音量+/ー

音量の上げ/下げをします。

6. 番組説明

現在視聴している番組の詳細情報を表示します。

7. デジタルメニュー

デジタルメニューの内容を表示します。

8. ▲,▼,◀,▶,決 定

▲,▼,◀,▶: オン・スクリーン・ディスプレー(OSD)機能の選択および調整をします。

決定：お好みの設定を確定します。

9. 設定メニュー

デジタル受信設定以外の設定メニューを開きます。

10. ビデオ

ビデオ映像入力に接続した機器の映像と音声を出力します。

11. D端子

D端子映像入力に接続した機器の映像と音声を出力します。

12. 静止画

ボタンを押した時点の入力映像を、静止して表示します。

13. スリープ

オフタイマーの設定をします。

14. 画面表示

受信チャンネルなどの情報表示を切り替えます。

※番組情報・チャンネル番号/映像モード/タイマー時間が表示されます。

15. 消音

消音モードのオン・オフを切り替えます。

16. 番組表

EPG番組表を表示します。

17. 選局　/

ボタンを押して、チャンネルを順送りに選局します。

18. 戻る ▲ ▼

オン・スクリーン・ディスプレイ(OSD)メニューで前の画面に戻ります。

19. 入力切換

入力モードを切り替えます。

20. HDMI

HDMI入力に接続した機器の映像と音声を出力します。

21. 地上D

地上デジタル放送(ISDB-T)に切り替えます。

22. パソコン

PC-アナログ入力端子に接続した機器の映像と音声を出力します

23. 画面モード

「スタンダード」、「ダイナミック」、および「ユーザー」の三つのモードが用意されています。その中の「ユーザー」モードでは、お客様の好みで画質設定ができます。（→51ページ：画質モード参照）

デジタル放送について

本製品では地上デジタル放送を視聴することができます。デジタル放送では、以下のようなアナログ放送には無い機能を楽しむことができます。

デジタル放送の特長

高画質・高品質

デジタル放送では、従来のアナログ放送でみられるようなゴースト（映像の二重化）やスノーノイズ（雪が舞っているようなちらつき）といった映像の乱れが起こりません。なかでもデジタルハイビジョン放送では、アナログの通常放送と比較して走査線数（ブラウン管方式のテレビの映像の細密度を示す指数）で約2倍、解像度にして約8倍の高精細映像を楽しむことができます。
音声についても、音質が劣化しにくい方式で伝送しているため、高音質な音声を再現できます。

字幕放送

デジタル放送の番組の音声を、文字にして画面に表示させることができます。

電子番組表（EPG）

デジタル放送では、送られてくるデータの中に番組の情報が含まれています。これを利用して画面上に番組表を表示することができます。

文字スーパー

地域情報や速報など、番組に連動しない文字情報（文字スーパー）を画面に表示することができます。

本製品で視聴可能なデジタル放送の種類

本製品で視聴できるデジタル放送は、地上デジタルのみです。
衛星デジタル放送（BSデジタル、110度CSデジタル、SKY PerfecTV!など）には対応しておりません。

デジタル放送を視聴するための準備

アンテナなどについて

デジタル放送を視聴するためには、受信用のアンテナの用意をする必要があります。準備の仕方は、本製品をご使用になる環境によってことなります。詳しくはお買い上げ店などでご確認ください。

ケーブルテレビをご利用の場合

本製品はケーブルテレビのパススルー方式（同一周波数またはUHF帯域周波数変換）および帯域外周波数パススルーに対応しております。詳しくはご契約のケーブルテレビ事業者にお問い合わせください。

お知らせ

- 地上デジタル放送の受信には、UHFアンテナを使用します。現在お使いのアンテナがUHF対応機器であれば、基本的にそのままご使用いただけますが、場合によっては調整やブースターの追加が必要になることもあります。詳しくは販売店などにお問い合わせください。
- 本製品は地上デジタル専用のアンテナ入力端子を備えています。UHFアンテナを、地上デジタル専用に使用することもできます。

機器の準備をする

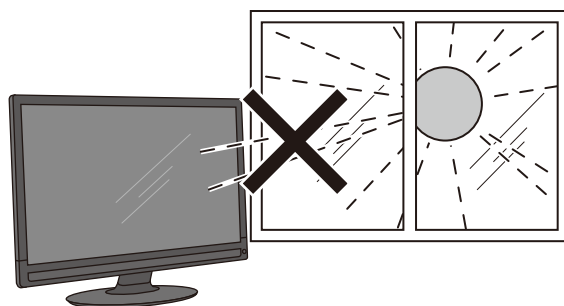
この章では、本製品や本製品に接続する機器の設置および設定方法についてご説明いたします。

設置のしかた

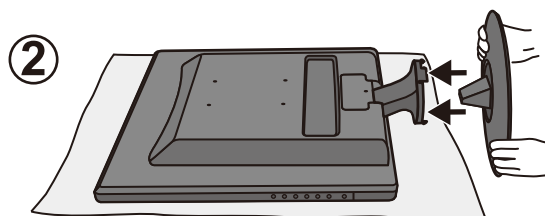
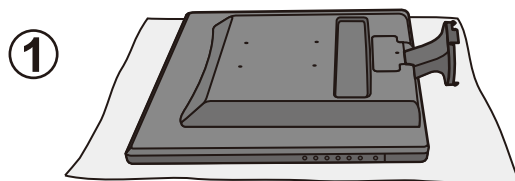
本製品は重量のある精密機器です。運搬や設置を行う際は、落下や転倒に十分注意してください。また、動作が安定する場所に設置するようにしてください。設置はできるだけ専門業者に依頼してください。

設置の手順

1. 置く場所を決める

- 直射日光が当たらず、気温が安定している場所を選んでください。
- グラつきなどがなく、きちんと固定できる場所を選んでください。

2. 台座をつける

- 画面を傷つけないように毛布や保護シートを敷き、画面を下にして本製品を置く。
- 台座を本製品のツメと台座の穴を合わせて差し込み、カチッと音がするまで押し付ける。

- 液晶パネル部に手を触れないようにご注意ください。

3. 配置する

ご注意

- 本製品が転倒するとお客様のケガや本製品の故障につながります。市販の転倒防止器具で転倒防止策を行ってください。

通気口について

通気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。風通しの悪い場所(棚や押入れの中など)や、絨毯や布団の上に置かないでください。また布をかけたりしないでください。定期的に掃除機で通気口にたまった埃を除去してください。

B-CASカードを入れる

miniB-CASカードについて

- 地上デジタル放送が視聴制限に使用しているのがB-CASカードです。
- デジタル放送をお楽しみいただくためには、B-CASカードを、本製品に挿入していただくことが必要です。
- 付属のminiB-CASカードは地上デジタル専用(ブルーカード)です。

miniB-CAS
地上デジタル専用
(株)B-CAS
TEL 0570-000-250
所有権は当社に属します

お知らせ

- B-CASカードに関するお問い合わせは、カードの裏面記載の(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズカスタマーセンターまでお願いいたします。
(TEL：0570-000-250)

miniB-CASカードの入れかた

- 本製品の電源を切る。
- 同梱の「ビーキャス(B-CAS)カード使用許諾契約約款」の内容を読み、了解していただいた上で、台紙からminiB-CASカードをはがす。
- miniB-CASカードを挿入する。

お知らせ

- B-CASカードには視聴情報などが記憶されますので、本製品に入れたままご使用ください。
- B-CASカードの盗難などにご注意ください。他人がお客様のカードを使用して有料番組を視聴した場合も、視聴料はお客様の口座に請求されます。
- B-CASカードは(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズから貸与されているものです。本製品を廃棄なさる場合は同社にご返却ください。また本製品を他の人に譲渡なさる場合は、新しい所有者の名義に変更してください。

取扱い上のご注意

- B-CASカードを折り曲げたり、傷つけたりしないでください。破損などによるB-CASカードの再発行は有料です。
- B-CASカードの金属部(集積回路)には触れないでください。
- B-CASカードの抜き差しは、必要な場合を除いて行わないようにしてください。

リモコンについて

乾電池の入れ方

- 電池カバーを開ける。
- +極、ー極の向きを確認し、正しい方向で単4形乾電池2本を入れる。
- 電池カバーがカチッというまで押して閉める。

お知らせ

- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。
- リモコンを長く使わないときは乾電池を取り出しておいてください。
- 乾電池を廃棄するときはお住まいの自治体で定める廃棄方法に従ってください。

操作のしかた

本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

ご注意

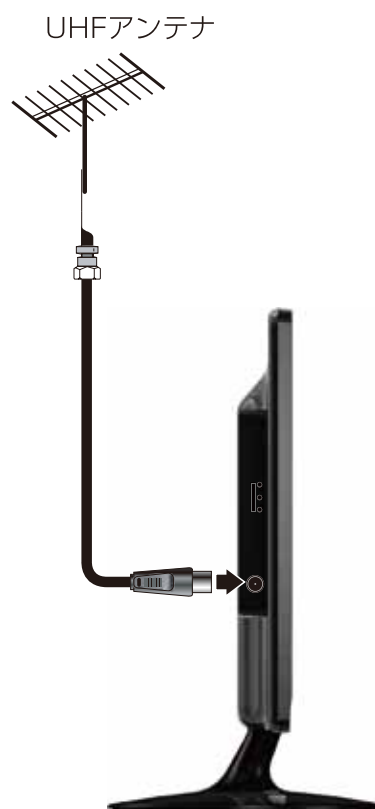
- リモコンには衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり温度の高い所に置いたりしないでください。
- リモコンは直射日光の当たる場所への取り付けや放置をしないでください。熱により変形することがあります。
- 本体のリモコン受光部に直射日光や強い照明が当たっているとリモコンが動作しにくくなることがあります。その場合は照明または本体の向きを変えるか、リモコン受光部にリモコンを近づけて操作してください。
- リモコンを操作してもテレビが動作しない場合は、新しい乾電池と交換してください。

アンテナの接続

ご注意
アンテナの取り付け・配線は、必ず専門業者にご依頼ください。

アンテナを接続する

単独での接続

- 地上デジタル放送の受信には、UHFアンテナを使用します。ご使用中のUHFアナログ放送と地上デジタル放送が同じ送信所から送られている場合は基本的に現在ご使用中のアンテナをそのままご使用いただけますが、場合によっては角度などの調整やブースターの追加が必要になることもあります。詳しくは販売店などにお問い合わせください。
- 現在UHF放送を受信していない場合、またはUHFアナログ放送と地上デジタル放送が異なった送信所から送られている場合は、新たにUHFアンテナをご購入ください。地上デジタル放送専用のアンテナ設置をお勧めします。
- 地上デジタル用のアンテナを地上デジタルアンテナ入力端子に接続するときは、アンテナケーブルを使用してください。
- ご自宅のアンテナ線がフィーダー線の場合は、円筒形の同軸ケーブルに変換するため、アンテナ整合器(別売)をお使いください。
- ケーブルテレビをご利用の場合、ケーブル会社からの再送信の方式によって接続の方法が異なります。詳しくは、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

マンションなどの共聴システムでの接続

まずはお住まいのマンションなどが、地上デジタルにどのように対応しているかを、マンション管理会社などにご確認ください。

他の機器との接続

本製品をDVDプレーヤー、HDDレコーダー、ビデオカメラ、ゲーム機、パソコンなどと接続してモニタとして使用することができます。

ご注意

- 接続の前に、本製品や接続する機器の電源をお切りください。
- 接続ケーブルの抜き差しは、ケーブルでなくプラグを持ってしっかりと行ってください。
- ノイズが出る場合は、機器間の距離が十分にとれるように配置してください。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

DVDプレーヤーなどを接続する

ビデオ映像入力端子に接続する

黄、赤、白のAVケーブルでDVDプレーヤーなどのAV出力端子と、本製品のビデオ映像入力端子とAV音声入力端子を接続します。プラグと端子の色をそれぞれ合わせるようにしてください。

S映像入力端子に接続する

S映像ケーブルでS映像入力端子に接続できます。S映像端子はビデオ映像端子での接続より良い画質が得られます。音声は、オーディオケーブル(ピンプラグ)で接続します。

D端子に接続する

D端子出力のある機器とD端子ケーブルで接続します。音声はオーディオケーブル(ピンプラグ)でD端子用の音声入力端子に接続します。

お知らせ

- 本製品のD端子はD4規格です。これはD端子規格の中でD1、D2、D3およびD4入力信号を自動的に判別して表示する機能を持った端子です。
- 接続機器によっては、出力をD端子に設定しなければ信号を出力しないものがあります。映像が表示されない場合は、接続する機器の取扱説明書をご覧いただき、設定してください。

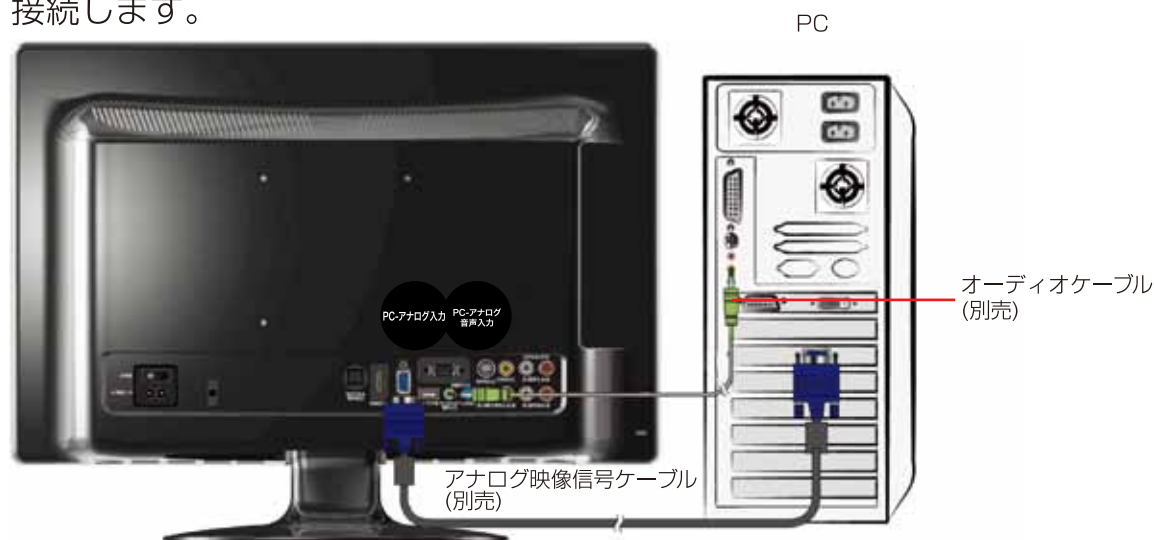
HDMI端子に接続する

HDMIケーブルを使い、HDDレコーダーやデジタルチューナーなどのHDMI出力端子と、本製品のHDMI入力端子を接続します。

お知らせ

- 映像、音声が表示、出力されない場合は、接続する機器の説明書などで出力機器の設定をご確認ください。

パソコンを接続する

アナログ映像信号ケーブルでパソコンのアナログ映像出力端子と、本製品のアナログ映像入力端子を接続します。音声はオーディオケーブル(3.5mmステレオミニプラグ)を接続します。

お知らせ

- すべてのパソコンでの動作保証をするものではありません。また、パソコンのビデオカードによっては表示できない場合があります。

AVアンプなどを接続する

光デジタルケーブル(角型)でAVアンプなどの光デジタル音声入力端子と、本製品の光デジタル音声出力端子を接続します。光デジタル接続を使用することにより、AVアンプなどから音声を出力することができます。5.1chの臨場感ある高音質な音声を楽しむことができます。

お知らせ

- この端子からはデジタル放送（地上）受信時のみ出力されます。
- AAC 5.1CH出力のみ対応しています。
- AVアンプなどは、AAC 5.1CH再生に対応した機器を使用してください。

ヘッドホンを接続する

ヘッドホンのプラグを、本製品のヘッドホン端子に接続します。

お知らせ

- ヘッドホンを接続すると、本製品のスピーカーから音が出なくなります。

外部スピーカーでテレビ音声を出力する

外部スピーカーの音声入力端子と、本製品の音声出力端子をオーディオケーブル(ピンプラグ)で接続します。

電源ケーブルの接続

接続する

すべての接続が終わったら、最後に付属の電源ケーブルを接続してください。
電源ケーブルを接続の際は、コンセントに接続してから本製品に接続してください。

テレビを見る

この章では、テレビを見るための基本的な使いかたについて説明しています。

電源と音量

入力モードの選択、チャンネル選択、音量の調整などの基本的な操作は、同梱のリモコンまたはテレビ本体の右側面部にあるパネルボタンで行うことができます。

電源を入れるまでに

テレビを使い始める前に以下の事項を確認してください。

1. 外部機器が正しく接続されていること。
2. 電源ケーブルが接続されていること。
3. 本体の背面に設置されている主電源スイッチがオンに設定されていること。オンに設定されると、LEDインジケータが橙に点灯。また、本製品を長い時間使用しない場合には、このスイッチをオフに設定することをお勧めします。

電源

本体の右側面部にある**[電源]**ボタンか、リモコンにある**[電源]**ボタンを押すと、テレビのオン/オフができます。オンの場合、LEDインジケータが青に点灯します。

ご注意

本製品は電源スイッチを切っただけでは完全に電源から切り離されておらず、常に微弱な電流が流れています。旅行などで本製品を長時間使用されないときは、コンセントから抜いてください。

音量

本体の右側面部、またはリモコンの**[音量]**ボタンで音量を調整します。

音を消すには、リモコンの消音ボタンを押してください。消音状態を解除するときは、もう一度消音ボタンを押すか、**[音量]**ボタンを押してください。

スリープタイマー

[スリープ]ボタンを押すと、指定した時間にスタンバイ状態になるオートオフ機能を設定できます。ボタンを押すたびに、次の設定時間を選択できます。

15分間、30分間、45分間、60分間があります。この機能を無効にしたい場合、0分間に設定してください。

テレビを見るための準備

ご注意
本製品を初めてご利用される場合は、下記の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビ放送を正常に受信できないため、視聴できるはずの番組が視聴できなくなります。

デジタル放送を見るための準備

1.条件を整える

デジタル放送を受信するには、以下の準備が必要です。詳しくは、本書の「機器の準備をする」(☞21ページ)をご覧ください。

- 専用のアンテナを接続する
- B-CASカードの準備をする

2.本製品の設定を行う

本製品を初めてご利用される場合や、お客様の居住エリアが変わった場合は、初期設定を行う必要があります。デジタルメニューの「チャンネルスキャン」の項目でまずデジタルメニューに入り、次に「地域の選択」(☞39ページ)の設定を行ってください。

チャンネルを選ぶ

お知らせ

- チャンネルを選んでから映像が切り替わるまでに時間がかかる場合がありますが、映像信号の変換などに時間がかかるためで、故障ではありません。
- 放送局番号と物理チャンネル
  デジタル放送では1つのチャンネルで最大3つの番組を放送できます。このため、チャンネルを指定しただけではどの番組を見るのか特定できません。そこで、3桁の放送局番号によって番組を特定できるようになっています。最初の2桁が放送局を示し、最後の1桁でそのチャンネルのどの番組かを指定します。
  また、今までのUHF帯のチャンネル番号をこの放送局番号と区別するために「物理チャンネル」と呼んでいます。

入力を切り替える

- **[地上D]**または**[入力切換]**を押して放送の種類を選ぶ。
- [入力切換]を押すと画面左上に入力種別が表示されます。**[▲▼]**を押すか、**[入力切換]**を引き続き押してご覧になりたい放送種別を反転表示させ、そのまま2秒お待ちになるか**[決定]**または**[◀▶]**を押すと入力が切り替わります。

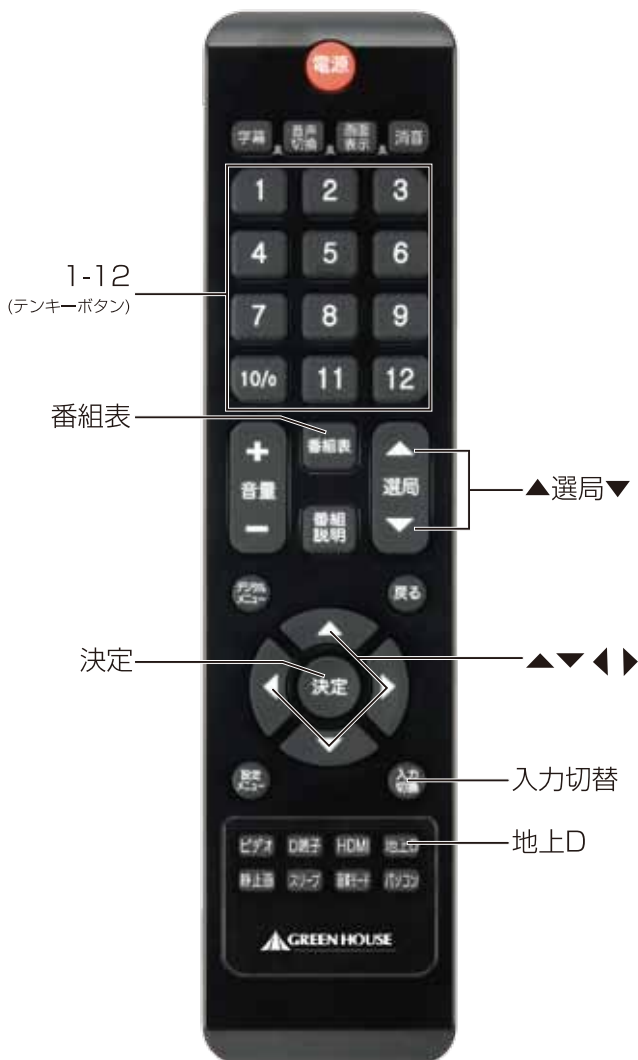
チャンネル番号で選局する(ワンタッチボタン選局)

お好みのチャンネルをテンキーボタンで入力する。

選局ボタンで選局する

[▲選局▼]を押して選局する。

裏番組表で選局する(デジタルのみ)

1. **[番組表]**(裏番組表)を押す。
2. **[◀▶]**を押してチャンネル(番組)を選ぶ。
3. **[決定]**を押す。

デジタル放送を楽しむ

共通の操作

チャンネル情報を表示する

チャンネル情報を表示させます。

- **[画面表示]**を押す
  もう一度**[画面表示]**を押すと、表示が消えます。

音声を切り替える

スピーカーから出力する音声を切り替えます。

- **[音声切換]**を押す
  押すごとに、番組ごとに設定された音声の選択肢の中で切り替わります。

画質を切り替える

画質モードの切り替えを行います。

- 選択項目
  スタンダード：標準モードです。
  ダイナミック：カラー、シャープネスなどをやや大きめに設定します。
  ユーザー：お客様のお好みに合わせて設定できます。

字幕を切り替える

本製品に出力する字幕の言語を切り替えます。

- **[字幕]**を押す
  押すごとに、番組ごとに設定された字幕言語の選択肢の中で切り替わります。

電子番組表を表示する

電子番組表(EPG)を表示します。

- **[番組表]**を押す
  もう一度**[番組表]**を押すと、表示が消えます。

お知らせ

- 番組表を使用した選局や視聴予約はできません。
- 本製品は、データ放送には対応していません。

番組説明を表示する

選択中の番組の内容説明を表示します。

- **[番組説明]**を押す
- もう一度**[番組説明]**を押すと、表示が消えます。

デジタルメニューの操作

デジタル放送をお楽しみいただく際のほとんどの操作は、デジタルメニューから行うことができます。

基本的な操作

デジタルメニュー中の操作方法は、原則的に以下の操作の組み合わせで行います。

1.**[デジタルメニュー]**を押す。
2.[▲▼◀▶]を押して項目を選ぶ
3.**[決定]**を押して選択を確定する。

お知らせ

- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- デジタルメニュー中で使用するリモコンのボタンは、画面に表示されますので、ご参照ください。

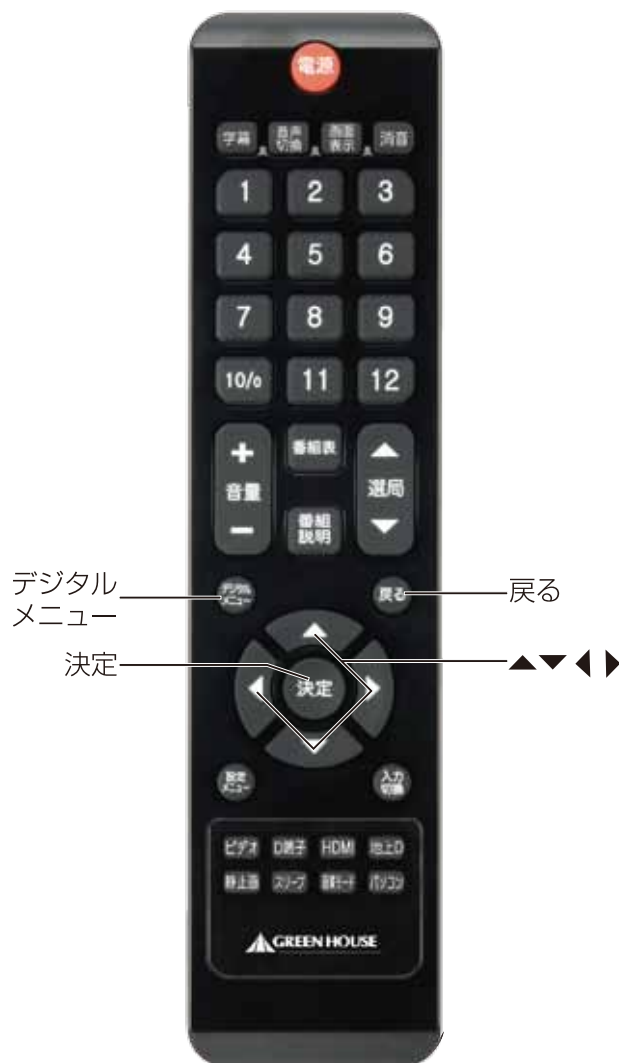
基本設定

メール

放送波により通知され、受信機により作成されます。その受信機に保存された独自メールの一覧および詳細を表示することができます。

1.**[デジタルメニュー]**を押す。
2.**[▲▼]**を押して**メール**を選び、**[決定]**を押す。
3.**[▲▼]**を押してメールタイトルが選択でき、**[決定]**を押す。

お知らせ

- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- メールは最大12件まで表示できます。
- 最大件数を超えた場合は最も古いメールかつ既読のものを削除します。
- メールが1件も受信されていない場合、最上段のタイトル部分に"メールがありません"と表示されます。

基本設定

アンテナレベル

現在視聴中の受信レベルをリアルタイムで表示することができます。

1. **[デジタルメニュー]**を押す。
2. [▲▼]を押して**アンテナレベル**を選び、**[決定]**を押す。

お知らせ

- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- [▲▼]で放送選択、物理チャンネルが選択できます。
- 物理チャンネルの変更を行うことで受信状況が表示されます。

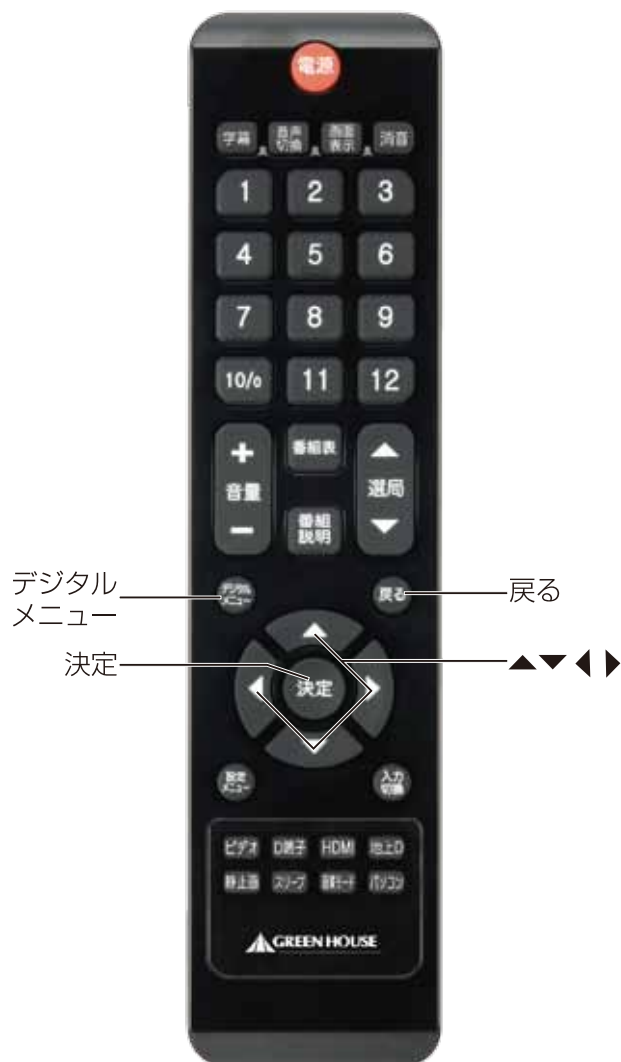
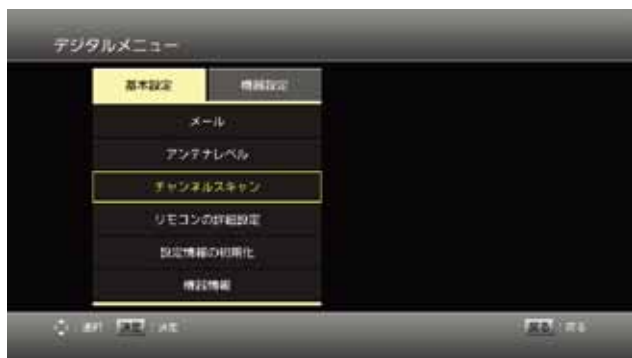
基本設定

チャンネルスキャン

本製品をご使用いただく地域での、受信可能なチャンネルのスキャンを行います。

1. **[デジタルメニュー]**を押す。
2. [▲▼]を押して**チャンネルスキャン**を選び、**[決定]**を押す。
3. [◀▶]を押して地域の選択、**[決定]**を押す。
4. チャンネルスキャン終了後は自動的に"ワンタッチボタンの確認・編集"が表示される。

お知らせ

- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- スキャンを中止(0〜99%の間で**[デジタルメニュー]**または、**[戻る]**を押下)した場合はラストチャンネルを選局します。

基本設定

リモコンの詳細設定

テンキーボタンに割り当てられている地上デジタル放送の情報リスト表示および、各テンキーボタンへの設定追加、変更、解除を可能とします。

1. **[デジタルメニュー]**を押す。
2. [▲▼]を押して**リモコンの詳細設定**を選び、**[決定]**を押す。
3. [▲▼]でボタンに割り当てるリモコンボタンを選択し、**[決定]**を押す。
4. [◀▶]でボタンに割り当てるチャンネルを選択し、**[決定]**を押す。

お知らせ

- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- テンキーボタンへの割り当て可能数は最大12局までとします。
- 未スキャン時の場合、またはサービスが取得できなかった場合はチャンネルスキャン開始前の最上段に"チャンネルがありません"と表示されます。

設定情報の初期化

工場出荷後にユーザー操作により設定が変更された内容を、工場出荷時の状態に復元することにより、受信機を購入した時点の状態へ戻すことを可能とします。

1. **[デジタルメニュー]**を押す。
2. **[▲▼]**を押して**設定情報の初期化**を選び、**[決定]**を押す。
3. 設定情報の初期化の"開始する"を選択し、**[決定]**を押す。

お知らせ

- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- 設定情報の初期化実行直後、電源が立ち上がりチャンネルスキャン画面が表示されます。
- 初期設定時は、"東京都"が表示されます。

基本設定

機器情報

ユーザー操作によってＩＣカード情報、およびソフトウェアバージョン情報の表示を可能にします。

1.**[デジタルメニュー]**を押す。
2.**[▲▼]**を押して**機器情報**を選び、**[決定]**を押す。
3.B-CASカード情報の下に液晶テレビのソフトウェアバージョンを表記する。

お知らせ

- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- B-CASカード情報はカード識別、カードID、グループID（最大7個）を表示します。
- カード抜き挿しでICカード情報は更新されません。

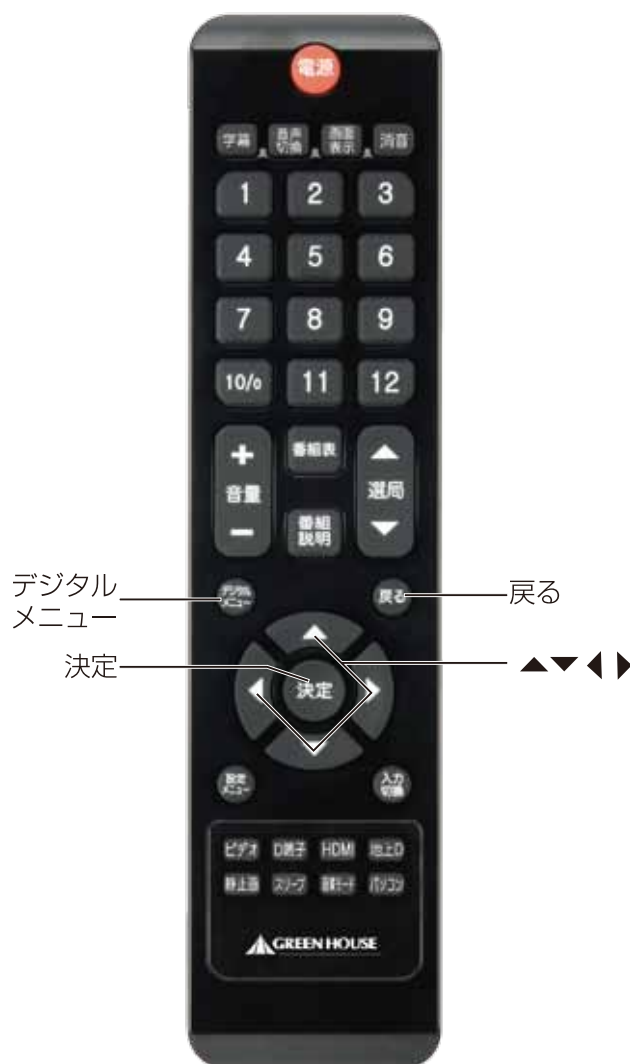
機器設定

字幕の設定

放送に字幕が送出されている場合に、表示するか否か、および表示する場合の言語の指定を可能とします。

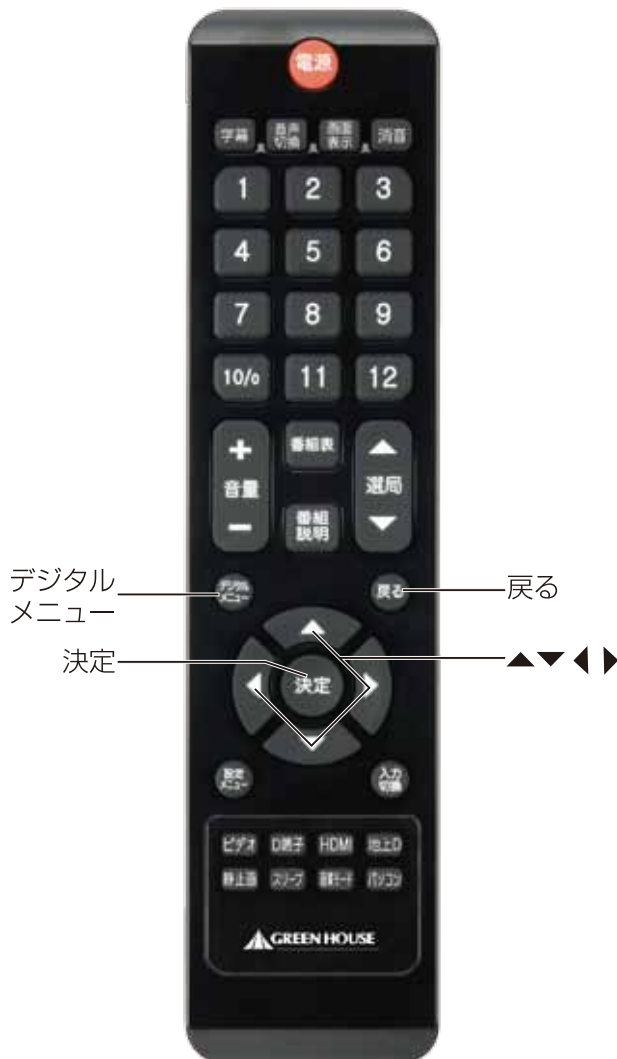
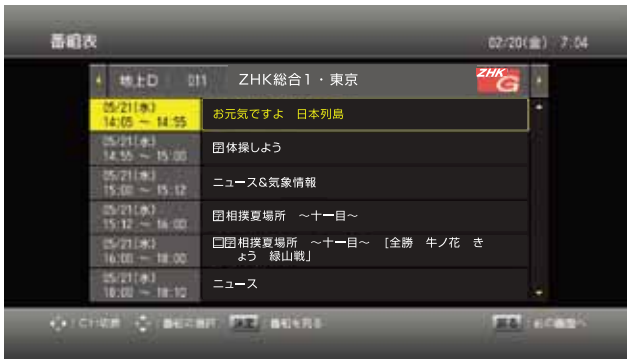
1.[**デジタルメニュー**]を押す。
2.[◀▶]を押して**機器設定**を選ぶ。
3.[▲▼]を押して**字幕の設定**を選び、[**決定**]を押す。
4.[◀▶]で字幕の項目を選択し、[**決定**]を押す。
オフ:表示しない。
日本語：字幕を日本語で表示。
英語：字幕を英語で表示。

お知らせ

- [**戻る**]を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- 初期設定時は、[**オフ**]になっています。

文字スーパーの設定

放送に映像・音声と共に文字スーパーが送出されている場合に、表示するか否か、および表示する場合の言語の指定を可能とします。

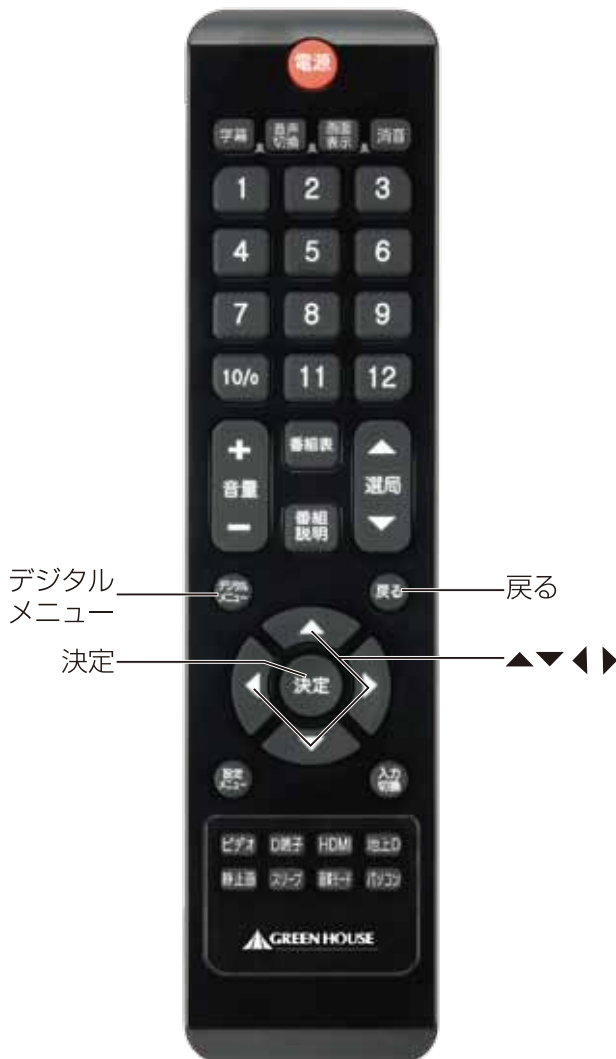
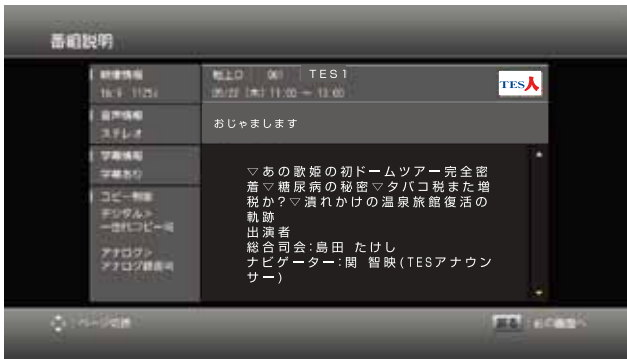
1.**[デジタルメニュー]**を押す。
2.[◀▶]を押して**機器設定**を選ぶ。
3.[▲▼]を押して**文字スーパーの設定**を選び、**[決定]**を押す。
4.[◀▶]で文字スーパーの項目を選択する、**[決定]**を押す。
オフ:表示しない。
日本語：文字スーパーを日本語で表示。
英語：文字スーパーを英語で表示。

お知らせ
- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- 初期設定時は、**[オフ]**になっています。

番組を探す

番組表から番組を探す

番組表は、1画面には1チャンネル分・6番組を一覧表示します。
画面上部にネットワーク名、チャンネル番号、サービス名、サービスロゴ。
右側上部に現在時刻、中央にイベント一覧を表示します。

1.**[番組表]**を押す。
2.[◀▶]でチャンネルを選択する、カーソルの選択先は同一時間帯の番組となる。
3.[▲▼]を押して**番組表**を選び、**[決定]**を押す。

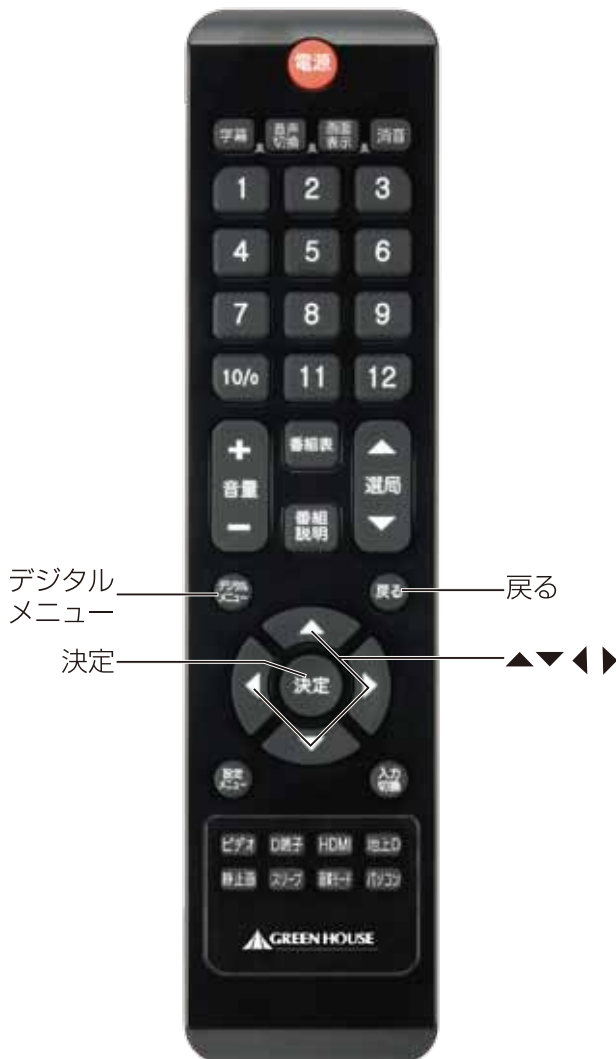
お知らせ

- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- 番組表は時間経過により自動更新されます。
- 未スキャンの場合や時刻が取得できていない場合は番組表は起動できません(無動作となります)。
- 番組情報が取得できていない場合、タイトル部分に"番組情報がありません"と表示されます。

番組説明を見る

番組についての番組情報や内容説明の表示ができます。

1.番組説明画面表示は、番組視聴中、または番組表表示中に[番組説明]、または[決定]を押す。

お知らせ

- [戻る]を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- 番組説明が取得できていない場合、本文に"番組情報がありません"と表示されます。

一歩進んだ使いかた

この章では、他の機器を接続した場合の操作方法や、本製品の設定を変える方法など、一歩進んだ使いかたについて説明しています。

接続機器を使う

接続機器の映像を見る

接続を確認する

接続を確認してください。

入力を切り替える

●[入力切換]を押す。
●[入力切換]または[▲▼]を押して希望する入力を選ぶ
●約2秒で入力が切り替わります。[◀▶]または[決定]を押せばすぐに切り替わります。
以下の順番で切り替わります。
D端子: D 端子映像入力に接続した機器の映像と音声を出力します。
HDMI: HDMI 入力に接続した機器の映像と音声を出力します。
地上D: 地上デジタル放送の映像と音声を出力します。
AV : ビデオ映像入力に接続した機器の映像と音声を出力します。
SV : S 映像入力に接続した機器の映像と音声を出力します。
以下のボタンを押して簡単切り替えもできます。
[ビデオ] : ビデオ映像入力に接続した機器の映像と音声を出力します。
[D端子] : D端子映像入力に接続した機器の映像と音声を出力します。
[HDMI] : HDMI入力に接続した機器の映像と音声を出力します。
[地上D] : 地上デジタル放送の映像と音声を出力します。
[パソコン]: PC-アナログ入力端子に接続した機器の映像と音声を出力します。

接続機器を再生する

接続機器の取扱説明書をご覧いただき、機器を再生してください。

お知らせ

接続機器の再生からテレビ放送受信には、以下のボタンを押して切り替えることもできます。
●テンキーボタン：前回ご覧になっていた帯域(地上デジタル)の選択されたチャンネルを受信します。(放送のないチャンネル番号が入力された場合は前回ご覧になっていたチャンネルを受信します。)
●[↑選局↓]：前回ご覧になっていた帯域(地上デジタル)の前回ご覧になっていたチャンネルを受信します。

ご注意

パソコン入力の無い状態でパソコンを選択すると、直ちにスタンバイ状態になります。この場合、[地上D]などを押すと、再び電源が入ります。

便利な機能

画質と音の簡易設定

画質モードを切り替える

ワンボタンで画質の切り替えを行います。

[画質モード]を押す

●スタンダード

標準設定の画質に設定します。

●ダイナミック

カラー、シャープネスなどをやや大きめに設定します。

●ユーザー

お客様のお好みに合わせて設定できます。

画面を静止させる

視聴中の画面の静止/再始動をします。

[静止画]を押す

もう一度押すともとに戻ります。

画質と音の簡易設定

音声を切り替える

スピーカー(またはヘッドホン)から出力する音声を切り替えます。

[音声切換]を押す

デジタル放送

● **主音声のみの場合**

音声1: 主：主音声を出力します。

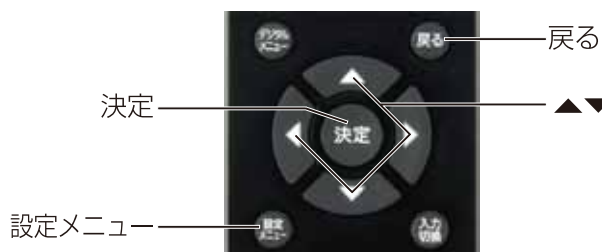
● **2ヶ国語モノラル放送時**

音声1：主：主音声を出力します。
音声1：副：副音声を出力します。
音声1：主/副：主音声と副音声を同時に出力します。

● **2ヶ国語ステレオ放送時**

音声1：主：音声1を出力します。
音声2：主：音声2を出力します。

設定メニューを使う

設定メニューについて

本製品をご使用いただく上での基本的な設定は、設定メニューを使って設定できます。

基本的な操作

設定メニュー中の操作方法は、原則的に以下の操作の組み合わせで行います。

[設定メニュー]を押す
[▲▼◀▶]で項目を選ぶ
[戻る]または再度**[設定メニュー]**を押して設定を確定する

画像

本製品の画像を設定します。

お知らせ

パソコン/HDMIモードの場合はこのメニューの代わりに「PC設定」メニューが表示されます。

画質モード

画質モードの切り替えを行います。

● 選択項目
　スタンダード：標準モードです。
　ダイナミック：カラー、シャープネス等をやや大きめに設定します。
　ユーザー：お客様のお好みに合わせて設定できます。

お知らせ

- **コントラスト/明るさ/色の濃さ/色あい/シャープネス/バックライト/省エネモード**は、**ユーザー**を選択した場合のみ設定できます。
- **[画質モード]**を押して設定することもできます。

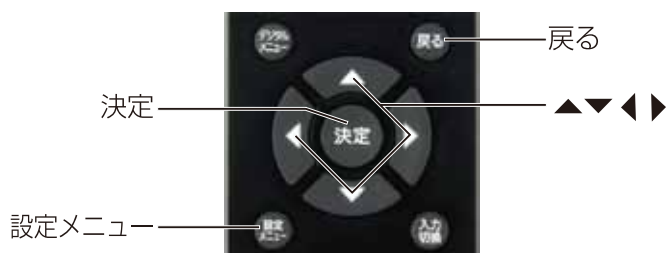
コントラスト

画面のコントラストを調整します。
(左/低くなる　右/高くなる)

明るさ

画面の明るさを調整します。
(左/暗くなる　右/明るくなる)

色あい

画面の色あいを調整。
(左程赤調に、右程緑調に)

画像

色の濃さ

画面の色の濃さを調整します。
(左/薄くなる　右/濃くなる)

シャープネス

画面の鮮やかさを調整します。
(左/ソフトになる　右/シャープになる)

バックライト

バックライトの輝度を調整します。

省エネモード

画面の明るさを抑えたり、消費電力を節約します。

色調

3段階の色温度を選択できます。
標準：標準の色の濃さに設定します。
暖色系：赤みの強い画面に設定されます。
寒色系：青みの強い画面に設定されます。

画面サイズ

画角の切り替えを行います。

- **フル**

画面いっぱいに映像を表示します。入力信号によっては映像が上下に引き伸ばされます。

- **ズーム1**

映像の縦横比を維持したまま中心を基準に画面を拡大します。画面の外枠が一部欠けます。

- **ズーム2**

ズーム1の画面全体を上に動かし、画面下部に出る字幕が見えるようにします。

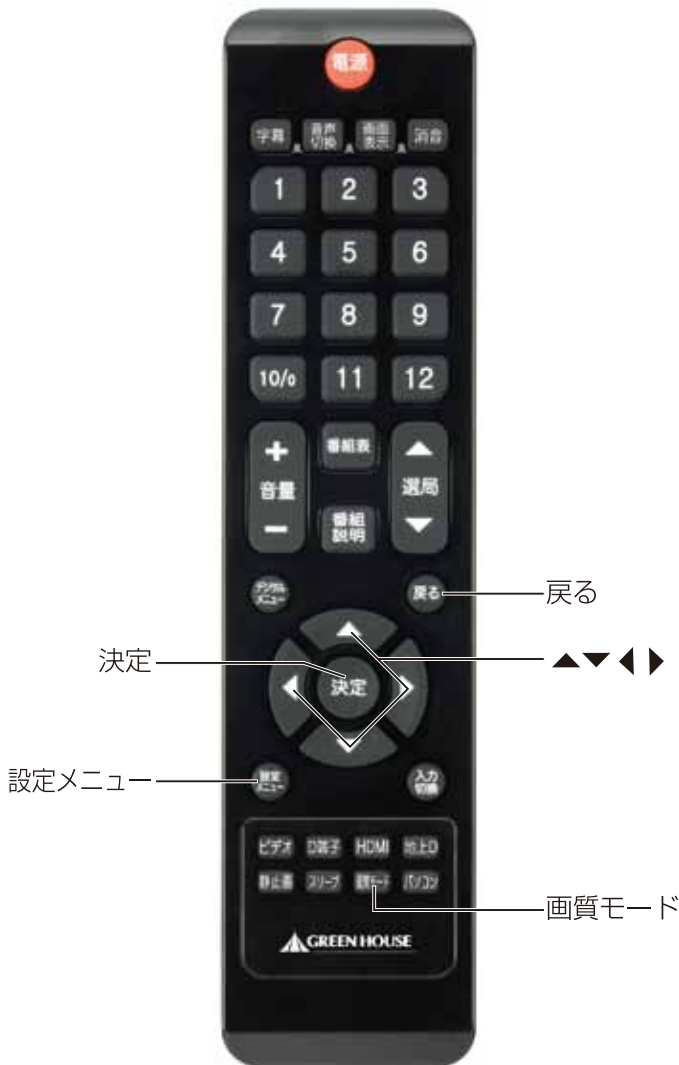
- **4:3**

映像の縦横比を維持するため、画面の左右に黒い部分ができる設定です。

- **パノラマ**

画面いっぱいに映像を出力します。入力信号によっては映像が左右に引き伸ばされます。

お知らせ

- 入力の種類によって選択できる画面モードは異なります。

設定画面

各種設定を行います。

水平位置

現在表示されているOSDメニュー画面の水平位置を調整します。

垂直位置

現在表示されているOSDメニュー画面の垂直位置を調整します。

表示時間

OSDメニュー画面の表示時間を設定します。
(単位：秒)

言語

OSD(画面表示)の言語を選択します。

オーバースキャン

一般のテレビ受像機は、画像の端のゆがみやノイズを隠すために、送られて来た画面の周辺部を表示しないようにしています。この状態をオーバースキャンといいます。
(HDMIモードでのみ対応)

リセット

設定を初期状態に戻すことができます。リセットする場合、▶ボタンで操作します。

パソコン

パソコン入力時の設定を行います。

お知らせ

パソコン/HDMIモード時のみ表示されます。

画質モード

画質モードの切り替えを行います。

- 選択項目
  スタンダード：標準モードです。
  ダイナミック：カラー、シャープネス等をやや大きめに設定します。
  ユーザー：お客様のお好みに合わせて設定できます。

お知らせ

- **コントラスト/明るさ/バックライト**は、**ユーザー**を選択した場合のみ設定できます。

省エネモード

バックライトの輝度を抑え、消費電力を節約します。

バックライト

バックライトの輝度を調整します。

コントラスト

画面のコントラストを調整します。

明るさ

画面の明るさを調整します。

色調

5つの色温度を選択できます。

1. [▶]を押して色調画面に移動します。
2. [◀▶]ボタンで標準(標準色)、暖色系(濃め色)、寒色系(薄め色)、自設定(お好み)のいずれかを選択します。
3. "自設定"を選択したときは、赤、緑、青をそれぞれ調整してお好みの色を設定してください。

画面自動調整

画面の水平位置、垂直位置、微調整、水平サイズ調整を自動的に行います。この場合、[▶]を押します。

水平位置

画面の水平位置を調整します。

垂直位置

画面の垂直位置を調整します。

水平サイズ

画面の水平サイズを調整します。

微調整

位相の遅延を調整します。画像が鮮明でないときに調整してください。

その他の情報

この章では、故障かなと思った場合の対処方法や用語の説明など、必要に応じてご参照いただく内容を記載しています。

故障かな？と思ったら

お問い合わせの前に

まず、以下の点をご確認ください。

- アンテナ線や電源ケーブル、その他の接続
- 入力切換の設定
- 地上デジタル放送の受信チャンネルのスキャン状態(☞39ページ)(地上デジタル放送は受信チャンネルのスキャンを行わないと受信できません。)

以下の状態は故障ではありません。

画面の中に、点灯したままの点、または点灯しない点がある

画面上に赤や青、緑の点(輝点)が消えなかったり、黒い点(滅点)が表れたりしますが、故障ではありません。液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

ときどき「ピシッ」というきしみ音が出る

周囲との温度差によってベゼルがわずかに伸縮するために起こる音です。故障ではなく、性能などにおよぼす悪影響もありません。

デジタル放送のチャンネルを変えたり、番組が切り替わったりするときにノイズが出る

デジタルハイビジョン信号と標準テレビ信号など、映像の解像度が変化するときに、同期信号など白い線が見えることがあります。

原因と対策

● 全般

問　　題	原　　因	対　　策
映像も音も出ない。	電源プラグがコンセントから抜けている。	電源プラグをコンセントに挿してください。
	入力切換が適切でない。	見たい映像の入力切換を選択してください。
電源が突然切れた/いつの間にか切れていた。	スリープタイマーが設定されている。	スリープタイマーをオフにしてください。
	パソコンモードで接続しているパソコンがパワーセーブモードに入った。	パソコンのパワーセーブモードから抜け出してください。
	ケーブルの接続部が緩んでいるため、パソコンからの入力が途切れ、無信号になった。	しっかりと接続してください。
リモコンが動作しない。	乾電池が適切に入っていない。	指定された電池を、指定された向き(+、−)で、適切に入れてください。
	乾電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。
	リモコンの向きが適切でない。	リモコンを本製品のリモコン受光部に向けて操作してください。
	本製品のリモコン受光部に、強い光が当たっている。	リモコン受光部に強い光が当たっていると、操作を受け付けない場合があります。カーテンやその他の遮蔽物で光を調整してください。
	近くに電子レンジがある。	近くに電子レンジがあると、操作を受け付けない場合があります。できるだけ本製品と電子レンジは離して設置してください。

● 映像(全般)

問　　題	原　　因	対　　策
色がおかしい/画面が暗い。	画像設定が適切に設定されていない。	画像設定を適切に設定してください。(☞51・52ページ)
画面がまぶしい。	画像設定が適切に設定されていない。	画像設定を適切に設定してください。(☞51・52ページ)
画面が一部切れる/画面が歪む。	画像設定が適切でない。	設定メニューで適切な設定を選んでください。(☞52・55ページ)

● 映像（デジタル放送）

問　　題	原　　因	対　　策
映像も音も出ない。	強風などでアンテナの向きが変わっている。	アンテナの向きを適切に調整してください。
	入力切換が適切でない。	見たい映像を入力切換で選択してください。(☞43ページ)
	B-CASカードが適切に挿入されていない。	適切に挿入してください。(☞23ページ)
地上デジタルの受信設定ができない/放送を受信できない。	アンテナが適切に接続されていない。	適切に接続してください。
	アンテナが地上デジタルに対応していない。	地上デジタルに対応したアンテナを使用してください。
	チャンネル設定が適切でない。	チャンネル設定をしなおしてください。
地上デジタルが映らない/画像が乱れる。	アンテナ線の接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	アンテナの位置/方向/角度が適切でない。	適切に調整してください。
	本製品の近くで携帯電話や電子レンジを使用している。	本製品の近くでの携帯電話や電子レンジの使用をおやめください。
	チャンネル設定が適切でない。	チャンネル設定をしなおしてください。(☞39ページ)
	ブースターのレベルを上げすぎている。	ブースターのレベルを下げてください。
画面が暗くなり、何も映らない。	ラジオ放送を受信している。	デジタル放送では音声のみの放送もあります。映像を楽しみたい時は、他のチャンネルをお選びください。

● 接続した機器について

問　　題	原　　因	対　　策
接続した機器の映像が出ない。	コードの接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	入力切換が適切でない。	見たいを入力切換で選択してください。(☞48ページ)
	接続した機器の出力設定が適切でない。	接続した機器の取扱説明書をご覧になり、設定しなおしてください。
パソコンの画像が出ない。	パソコンが、テレビに画像を出力できるように設定されていない。	パソコンの取扱説明書をご覧になり、設定しなおしてください。
ビデオの再生/録画時に縞状のノイズが出る。	ビデオデッキが本製品の近くにあるため、電磁波の干渉が起きている。	ビデオデッキを本製品からなるべく離して設置してください。
ビデオの再生/録画時に映像が乱れたり、映らなくなったりする。	コンポジット映像信号(通常の映像信号)やS映像信号を、AVアンプなどの外部機器を通してコンポーネント映像信号に変換すると、映像が乱れたり、映らなくなることがあります。	コンポジット映像信号またはS映像信号を、本製品のAV入力に直接接続してください。

● 音声（全般）

問　　題	原　　因	対　　策
映像は出るが、音が出ない。	音量が下がりきっているか、「消音」になっている。	音量を上げてください。
片方からしか音が聞こえない/左右の音量に差がある。	音声のバランス設定が適切でない。	設定メニューで音声のバランスを調整してください。(☞53ページ)
ヘッドホンの音が、スピーカーの音よりも聞こえにくい。	ヘッドホンのインピーダンスが合っていない。	インピーダンスの高いヘッドホンでは音が低めに出ます。本製品はインピーダンスが32オームのヘッドホンに合わせて設計してあります。

● 音声（デジタル放送）

問　　題	原　　因	対　　策
音声が出ない/音声がおかしい。	主音声/副音声の設定が適切でない。	主音声/副音声の設定をしなおしてください。(☞50ページ)

● 音声（接続した機器）

問　　題	原　　因	対　　策
画像は出るが、音が出ない。	接続した機器の音声出力設定が適切でない。	接続した機器の取扱説明書をご覧になり、設定しなおしてください。
	音声ケーブルが正しく接続されていない。	音声ケーブルを正しく接続してください。

● 番組表

問　　題	原　　因	対　　策
番組表や他チャンネルリストが表示されないチャンネルがある。	一定時間視聴するか、スタンバイ状態にしないと表示されません。	しばらくお待ちいただくか、スタンバイ状態にしてください。
	チャンネル登録していない。	チャンネル登録をしてください。
チャンネル検索で表示される番組が少ない。	電源ケーブルを抜いている間（LEDインジケータ：消灯）は、放送局が送信する番組情報を取得できないため。	リモコンの電源ボタンで電源を切り、スタンバイ状態(LEDインジケータ：橙点灯)にしてください。
地上デジタルの放送局のマークが表示されない。	一定時間視聴しないと、表示されません。	しばらくそのままお待ちください。

● その他

問　　題	原　　因	対　　策
▼選局▲ボタンで選局できない。	チャンネル登録されてない。	チャンネル登録をしてください。
	複数のチャンネルで同時に同じ番組を放送しているときに、代表チャンネル以外を選局しようとしている。	代表チャンネル以外は選択できませんので、代表チャンネルで選局してください。
設定が正しく反映されない。	本製品に設定が反映(記録)される前に電源を切った。	デジタル放送の信号には、多くの情報が含まれています。そのため、メニューの項目を設定した直後(約2分以内)に主電源を切ると、設定した内容が反映されないことがあります。このときは、もう一度設定をしなおしてください。
メニューが表示されない。	ソースによっては表示されないメニューもあります。	ソースを切り替えてください。
未読メールがありますと表示される。	デジタル放送や本製品から発行されたメールが来ています。	メールの内容をご確認ください。(☞37ページ)

● こんな表示が出たときは

エラー内容	対応方法
B-CASカードが未挿入です。	B-CASカードを正しく挿入してください。
このカードは使用できません。正しいICカードを装着してください。	正しいB-CASカードを裏表、挿入方向を確認して、再挿入してください。カードのIC部の汚れや,破損の可能性があります。正しく装着しても改善されないときは,ビーエス·コンディショナルアクセスシステムズのカスタマーセンターにご連絡ください。
このカードは使用できません。ご覧のチャンネルのカスタマーセンターへ連絡してください。	契約されていない番組を選局しています。別のチャンネルに変更するか、該当する放送局と契約をしてください。
スクランブル解除のための情報にエラーが発生しています。ご使用のB-CASカードの向きを確認してください。	カードを裏表、挿入方向を確認して、再挿入してください。カードのIC部の汚れや,破損の可能性があります。正しく装着しても改善されないときは,ビーエス·コンディショナルアクセスシステムズのカスタマーセンターにご連絡ください。
信号が受信できません。	天候の影響、アンテナケーブルが切れている、アンテナの向きがずれているなどの理由で全く信号入力がないなど、アンテナ線の接続に問題がある可能性があります。アンテナケーブルが切れている場合はケーブルを交換し、正しく接続してください。
現在放送されていません。	受信信号が弱い・無い、また放送終了後である可能性があります。地上デジタル放送の場合は、受信できる状態でいったん初期スキャンを行い、チャンネルを設定してください。
このチャンネルはありません。	実在のチャンネルが割り当てられていないテンキーボタンを押した場合に表示されます。実在のチャンネルが割り当てられたテンキーボタンを押してください。
低階層映像に切り替わりました。	降雨対応放送に切り替わりました。気象条件などにより信号レベルが低下しています。気象条件などが良くなるまで、しばらくお待ちください。
臨時放送が休止中のためご覧の放送局の別のサービスに切り替えます。	臨時放送が終了・休止中の場合に表示されます。自動的に視聴可能なチャンネルに切り替わります。

用語の解説

下記は一般的な用語解説です。本製品の仕様は異なっている場合があります。

5.1ch

左右のフロントスピーカー、センタースピーカー、左右のサラウンドスピーカーとサブウーファーから、それぞれ独立した音声を出力できるサラウンド方式です。臨場感と迫力のある音声を楽しむことができます。

B-CASカード

デジタル放送を見るために必要なICカードです。ユーザー認識のための番号や、チャンネルの契約・購入内容などの情報が記録されます。

CATV(ケーブルテレビ)

同軸ケーブルや光ケーブルなどのケーブルを用いて行われる有線放送のことです。ケーブルテレビ局と契約することにより視聴できます。地域密着型の情報発信などが特徴でしたが、最近では多チャンネル放送や自主放送を行う都市型のケーブルテレビ局も増えてきています。

D端子

デジタル映像の圧縮データや高画質映像信号の伝送に適した、日本独自のコネクタの通称です。輝度信号(Y)と色差信号(Cb/Cr, Pb/Pr)で構成されるコンポーネント信号は従来3本のケーブルで接続していましたが、これを一本にまとめたものがD端子です。また、これらの信号の他に走査線数・走査方式・アスペクト比を切り替えるための識別信号の伝送も可能です。

EPG(Electronic Program Guide)

デジタル放送で放送局から送られてくる番組データを利用してつくる電子番組表のことです。

HDMI(High Definition Multimedia Interface)

パソコンとディスプレイの接続標準規格であるDVIに、マルチチャンネル音声伝送機能や著作権保護機能、色差伝送機能を加えるなどAV家電向けにアレンジしたインターフェースです。1本で非圧縮の映像・音声信号と制御信号を伝送できるので、AV機器間の連携が容易にできます。

NTSC(National.Television.System.Committee)

地上波アナログカラーテレビ放送の規格の１つで、日本や北米、中南米で採用されています。水平方向の走査線数が525本で毎秒30フレーム(1秒間に30回画面を書き換える)のインターレース方式で、水平走査周波数は15.75kHz、垂直走査周波数は60Hzです。

S映像端子

S端子は輝度信号(Y)と色信号(C)に別れた映像信号を伝送します。このうち、色信号(C)に画面の縦横比の情報を乗せることで、テレビ側での自動判別を可能にしたものがS1/S2映像端子です。

イベントリレー

番組の途中で割り込みがあったり、その他の理由で番組が放送予定時間内に終わらなかった場合に、他のチャンネルで引き続き放送を行うことです。

インターレース（飛び越し走査）
NTSC方式のテレビやビデオの画像表示では、525本の走査線があります。このうち、まず奇数段目の走査線262.5本を1/60秒で描き(この画面を1フィールドといいます)、次に偶数段目を同様に描き、これを合わせることによって525本の完全な画像(フレーム)を作っていく方式です。「525i」「1125i」の「i」は、このインターレース(interlaced)を指しています。

コンポジット接続
通常の映像端子を使って映像信号を伝送する、最も普及している方式です。映像端子は通常１つのみで、音声端子と同じ形状で、色は黄色です。赤と白の音声出力と一緒に３本で接続するのが一般的です。

緊急警報放送
地上デジタル/BSデジタルのマルチ放送を利用し、地震などの災害時に放送される緊急ニュースなどを流します。

降雨対応放送
激しい雨による映像・音声の遮断を防ぐために、通常の放送に平行して降雨に強い方式で同じ番組を放送するものです。

字幕放送
音声を、文字にして画面に表示することができる放送です。

地上デジタル放送
2003年12月から一部地域で放送が開始された、地上波によるデジタル放送です。UHFの周波数帯域を利用して放送されます。ゴーストの無い高画質な映像と多チャンネルの放送を楽しむことができます。
デジタルハイビジョン放送やデータ放送、双方向サービスなどを楽しむことができます。

デジタルハイビジョン放送
通常のアナログ放送の走査線が525本であるのに対し、1125本や750本のプログレッシブの高画質な映像です。大画面の映像に適しています。

プログレッシブ（順次走査）
飛び越し走査(「インターレース」の項目を参照)をしないで、すべての走査線を順番に描く方法です。インターレースに比べて画像のチラツキが少なく、文字や静止画を表示することに適しています。「525p」や「750p」の「p」はプログレッシブ(progressive)を指しています。

マルチチャンネル放送
地上デジタルやBSデジタルの標準テレビ信号(SD)で、１つの放送局で複数の番組を放送することです。

マルチビュー放送
前述のマルチチャンネルの技術を使って、同じ番組を別の視点から見た映像を見るなど、複数の映像を切り替えて見ることができます。

有効走査線数

走査線の中で、映像信号が載っている走査線の数をいいます。地上アナログでは525本の走査線のうち有効走査線数は480本、デジタルハイビジョンでは1125本のうち1080本となっています。有効走査線ではない走査線には、画面の縦横比を規定した識別制御信号などが載っています。

臨時放送

前述のマルチチャンネルの技術を使って、同一放送局の他チャンネルで臨時の放送を行うことです。

自動でデジタル放送からダウンロードする機能について

電源スタンバイ中(LEDインジケータが橙に点灯)に、本製品内部のソフトウェアを最新の内容に自動で書き替える機能です。ソフトウェア書き替え用のデータ信号は、デジタル放送電波の中に含まれて送信されます。
本製品はダウンロードを自動で行う設定になっているため、お客様が操作することなく、常に最新版に更新されたソフトウェアで、デジタル放送を正しく受信し、お楽しみいただけます。

主な仕様

この製品は日本国内専用です。外国では電源電圧、放送方式が異なるため使用できません。
This TV is designed only for use in Japan and cannot be used in any other countries.

製品型番		GH-TV19JLHDK
液晶パネル	パネルタイプ	18.5"Wide non-glare TFT
	最大表示範囲	409.8(H)x230.4(V)
	最大表示解像度	1366×768
	画素ピッチ(mm)	0.3(H)×0.3(V)
	最大表示色	1677万色
	標準視野角度	上下:80°/80°左右:85°/85°
	コントラスト	1000:1
	最大輝度	250cd/㎡
	応答速度	5ms
	水平周波数	30～82kHz
	垂直周波数	55～76kHz
接続端子	入力端子	HDMI×1 Mini D-Sub15pin×1 D4端子×1 D4端子(音声)(赤､白)×1 コンポジット(映像)(黄)×1 コンポジット(音声)(赤､白)×1 S映像×1 3.5mmステレオミニジャック×1 地上デジタルアンテナ×1 USB(サービス用)×1
	出力端子	光デジタル(音声)(角型)×1 コンポジット(音声)(赤､白)×1 3.5mmステレオミニジャック×1
地上波アナログ/ デジタルチューナー機能	放送種類	地上デジタルハイビジョン放送､アナログ放送
	受信チャンネル	UHF 13ch～62ch / CATV 1ch～63ch
	HD(ハイビジョン)対応	○
	CATVパススルー対応	○
	字幕放送	○
	EPG(電子番組表)	○
	番組視聴予約(オンタイマー)	×
	データ放送	×
	双方向(データ放送)サービス	×
消費電力	最大時	34W
	通常使用時(オンモード)	19W
	待機時	1W以下
年間消費電力量		35kWh/年
電源電圧		AC100V 50/60Hz 0.5A
パワーマネージメント		VESA DPMS
プラグ&プレイ		VESA DDC 2B
画面コントロール		OSD
スピーカー		ステレオスピーカー(2.5W+2.5W)搭載(SRS Trusurround XT)
重量		2.9kg
外形寸法		W451.8×D189.8×H351.2(mm)
動作時温度		0℃～40℃
動作時湿度		20%～80%(結露なきこと)
保管時温度		0℃～60℃
保管時湿度		10%～90%(結露なきこと)
チルト角		上下:0°～ 20°

仕様の一部を予告無く変更することがあります。

注意：本体の右側面部の“メニュー”と“チャンネル▼”のキーを同時に押して、近似のPCタイミングの間で切り替えを行うようにします。
近似のPCタイミングは次のものがあります：
- 640×400@70Hz / 720×400@70Hz
- 1024×768@60Hz / 1280×768@60Hz / 1360×768@60Hz

タイミング表

1.対応のモード

下表は信号対応の表示モード一覧表になります。本製品は、対応対象外の解像度を持つ信号が入力されると、動作を自動的に停止するか、または表示不可能になります。最高の画質をお楽しみいただくために、下表に従って表示モードを設定してください。

お知らせ

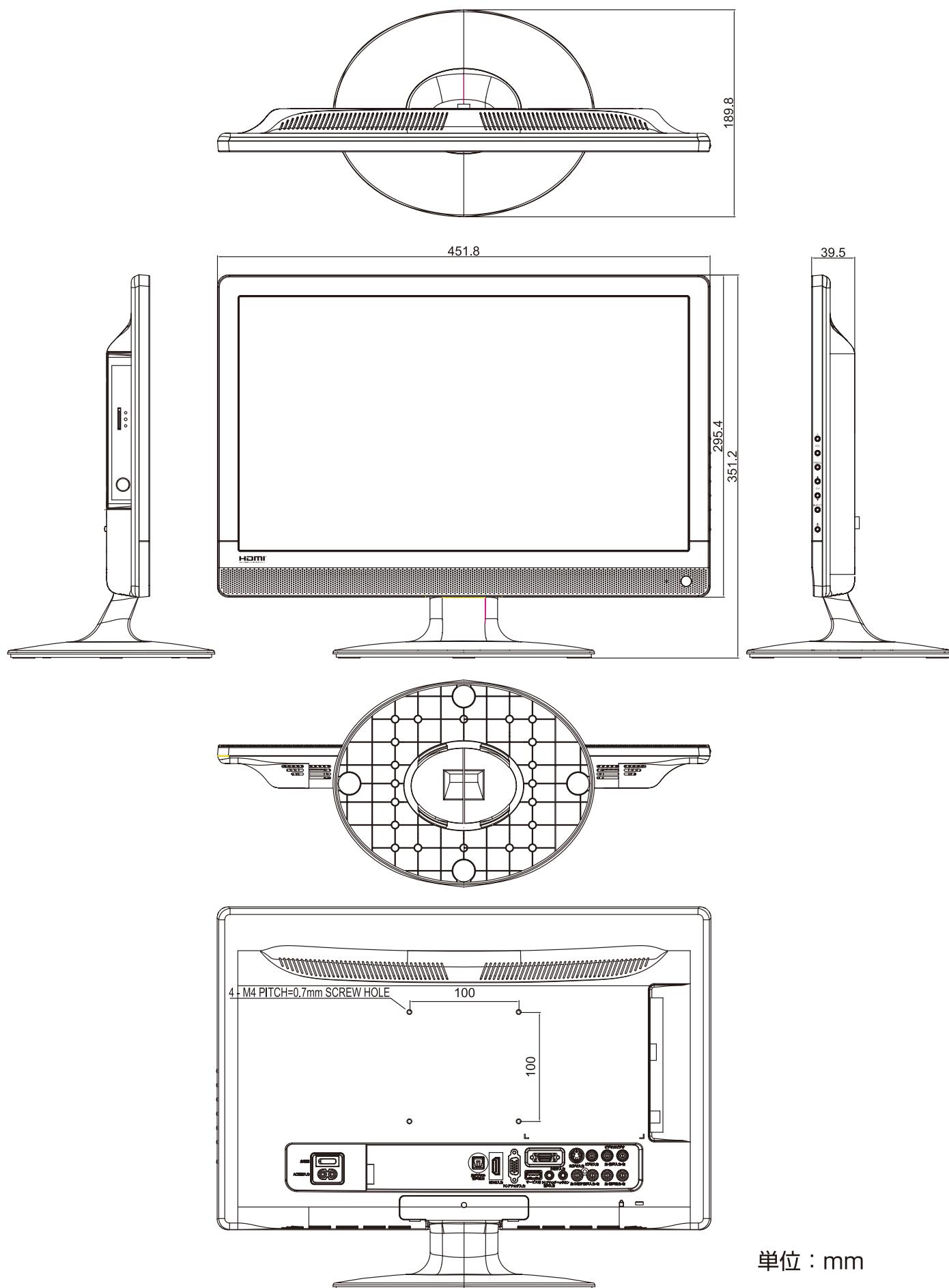
- すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。また、パソコンのビデオカードによっては表示できない場合があります。

モード	CVBS	SVHS	D	HDMI	TV	VGA
RF	×	×	×	×	○	×
NTSC 480i	○	○	○	○	×	×
NTSC 480p	×	×	○	○	×	×
HD 720p	×	×	○	○	×	×
HD 1080i	×	×	○	○	×	×
640 x 480 @ 60Hz	×	×	×	○	×	○
640 x 480 @ 75Hz	×	×	×	○	×	○
800 x 600 @ 60Hz	×	×	×	○	×	○
800 x 600 @ 75Hz	×	×	×	○	×	○
1024 x 768 @ 60Hz	×	×	×	○	×	○
1024 x 768 @ 75Hz	×	×	×	○	×	○
1152 x 864 @ 75Hz	×	×	×	○	×	○
1280 x 960 @ 60Hz	×	×	×	○	×	○
1280 x 1024 @ 60Hz	×	×	×	○	×	○
1360 x 768 @ 60Hz	×	×	×	○	×	○

2.画面サイズの設定

モード	フル	4:3	ズーム1	ズーム2	パノラマ
NTSC 480i*	○	○	○	○	○
NTSC 480p	○	○	○	○	○
HD 720p	○	○	×	×	×
HD 1080i	○	○	×	×	×
HD 1080p	○	○	×	×	×
640 x 480 @ 60Hz	○	×	×	×	×
640 x 480 @ 75Hz	○	×	×	×	×
800 x 600 @ 60Hz	○	×	×	×	×
800 x 600 @ 75Hz	○	×	×	×	×
1024 x 768 @ 60Hz	○	×	×	×	×
1024 x 768 @ 75Hz	○	×	×	×	×
1280 x 720 @ 60Hz	○	×	×	×	×
1280 x 768 @ 60Hz	○	×	×	×	×
1280 x 1024 @ 60Hz	○	×	×	×	×
1360 x 768 @ 60Hz	○	×	×	×	×

※ *=出荷値、

寸法図

単位：mm

故障について

故障については、下記のサービス窓口にてご相談ください。

サポート窓口	グリーンハウス　テクニカルサポート
テクニカルサポートダイヤル	03-5421-0580
受付時間	10:00 ～ 12:00 /13:00 ～ 17:00（土日祝日をのぞく弊社営業日）
FAX	03-5421-2266（24 時間受付）
住所	〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-19-15 ウノサワ東急ビル5階
ホームページ	http://www.green-house.co.jp/

・故障やご使用上のご質問は、テクニカルサポートダイヤルへお電話いただくか、弊社ホームページにあるサポート「各種問い合わせ」や FAX でお問い合わせください。
・弊社ホームページにあるサポート「各種お問い合わせ」からお問い合わせの場合、ユーザー登録が必要になります。
・お問い合わせの前に、取扱説明書「トラブルシューティング」や弊社ホームページにあるサポート「よくあるご質問」をご活用ください。
・テクニカルサポートダイヤルの受付時間は、予告なしに変更する場合があります。

・本製品は、日本国内専用に製造および販売されています。
・本製品は、日本国外では使用できません。
・本製品を日本国外で使用することによるいかなる問題に対しても、責任を負いかねます。
・本製品は、日本国外での技術サポートおよびサービスは行っておりません。
・This product is manufactured and sold for Japanese domestic market only.
・This product can not be used outside Japan.
・We have not responsibility for any issues caused by the use of this product outside Japan.
・We also do not have any technical support and service for this product in other countries.

※製品のデザイン及び仕様は改良等により変更する場合があります。
※本書の内容は、予告なしに変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

※本書について、お気づきの点がありましたら、弊社サポート窓口へお問い合わせください。